

ニュース

全関労

2022年
10月18日
VOL. 49
臨時号

東京都台東区小島1-8-7

Zenkan1972@yahoo.co.jp TEL 03(38863)3433

全関東単一労働組合本部

天皇出席の

沖縄国民文化祭に反対する

琉球弧の軍事要塞化を阻止しよう

10月22日から「美ら島おきなわ文化祭2022」が開催される。沖縄国民文化祭は「復帰50年記念行事」の一環として位置付けられ、10月23日の開会式（宜野湾市・沖縄コンベンションセンター）に天皇が出席する。

沖縄国民文化祭は、5・15「復帰50年式典」とともに、「日本復帰」＝沖縄再併合50年を「祝賀」し、もって日米軍事植民地化を打ち固める行事にはかならない。

琉球・沖縄は今、日米軍事同盟の対中国戦争の前線基地として軍事要塞化が進められている。琉球弧全域に自衛隊ミサイル部隊が配置され、軍事訓練が日常化し、さらには核戦争

も想定したシェルター建設など、文字通りの戦時体制下に置かれている。

こうした状況下での天皇訪沖＝「日本復帰」祝賀は、77年前の沖縄戦で、天皇制護持のため沖縄民衆に筆舌に尽くしがたい犠牲を強いたことへの謝罪や反省ぬきに、再び「天皇の臣民（皇民）」として「進んで戦争の犠牲になる」ことを強制するものである。

かかる中であって、「5・15復帰」を問う沖縄行動は天皇出席の沖縄国民文化祭反対を呼びかけている。10・21～23沖縄現地行動に結集しよう（裏面に行動スケジュール）。

国民文化祭による

戦争天皇制への統合ゆるすな

国民文化祭は1986年から開始され、当初は皇太子行事だったが、ナルヒトが天皇に即位してからは天皇行事に格上げされ、「国民体育大会」、「植樹祭」、「海づくり大会」とともに、四大事事の一角を占めている。国民文化祭は各地の文化的行事を通じて、他の天皇行事同様、民衆を天皇制国家のもとに統合しようとするものである。

「沖縄国民文化祭では、アマチュアを中心に歌や演奏会、演劇、民俗芸能、……などのさまざまな文化活動が発表されます。そしてその時、天皇徳仁は沖縄に来て『おことば』を述べます。それは参加した地域の人々に『認められた』『選ばれた』『誇らしい』『うれしい』という感情を、また同時に沖縄の人びとすべてにも天皇への『好ましい』感情をつくりだすものと日本（ヤマトウ）の支配階級は考えています。……文化交流という誰しもが入りやすい方法を用いて、戦争の危険性を文化の中に溶け込ませ、沖縄の民衆を支配するものです」（沖縄行動／沖縄文化祭反対ビラより）。

日米安保破棄！反戦・改憲阻止の闘いを

岸田政権は琉球・沖縄民衆の度重なる辺野古新基地建設反対の意思を踏みにじり、警察力を動員して建設を強行している。そして今、米バイデン政権と結託して「台湾有事」を煽

り立て、対中国戦争を日程に上らせている。

その具体化のひとつが宮古・八重山などへのシエルター建設だ。すでに宮古島には自衛隊のミサイル部隊が配備され、石垣島にも近々配備される。このミサイル部隊は中国軍（基地）を射程にしたものであり、その反撃に備えてのシエルター建設だ。すでに米日両政府は、琉球弧の戦場化を想定したうえで、住民を犠牲にする対中国戦争の作戦計画を立てているのである。再度、沖縄・琉球を戦場とする暴挙を断じてゆるしてはならない。ナルヒト天皇の訪沖はかかる対中国戦争の後押しをするものだ。

反戦・反天皇制、改憲阻止の闘いがますます重要だ。

10・21～23 沖縄現地連続行動に結集を。

★10・21 琉球・沖縄民衆交流の集い

10月21日（金）午後6時～8時半

沖縄船員会館第3会議室／那覇市前島

主催 反戦反天皇制労働者ネットワーク

★天皇出席の沖縄国民文化祭反対シンポジウム&デモ

10月22日（土）午後1時開場 集会後デモ

会場 浦添ベッツテルハイムホール／浦添市前田

主催 5・15 復帰を問う沖縄行動

★天皇出席の沖縄国民文化祭開会式抗議行動

10月23日（日）10時～

会場周辺にてスタンディング行動 主催：同沖縄行動